



第185期  
Business Report

平成19年4月1日→平成20年3月31日

[ Kawasaki illustrated ]

陸・海・空の物語。

[ Top interview ] Keiko Yashio × Tadaharu Ohashi

人に役立つもの、社会が求めるものをつくりつづけてきた、川崎重工の誇り

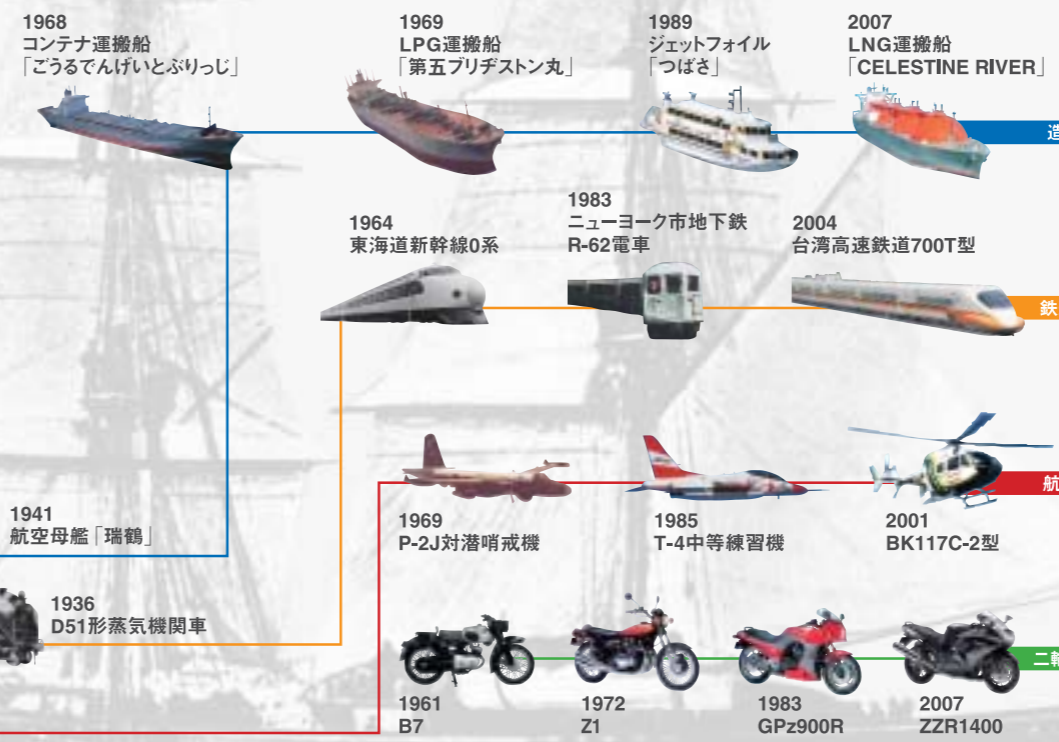
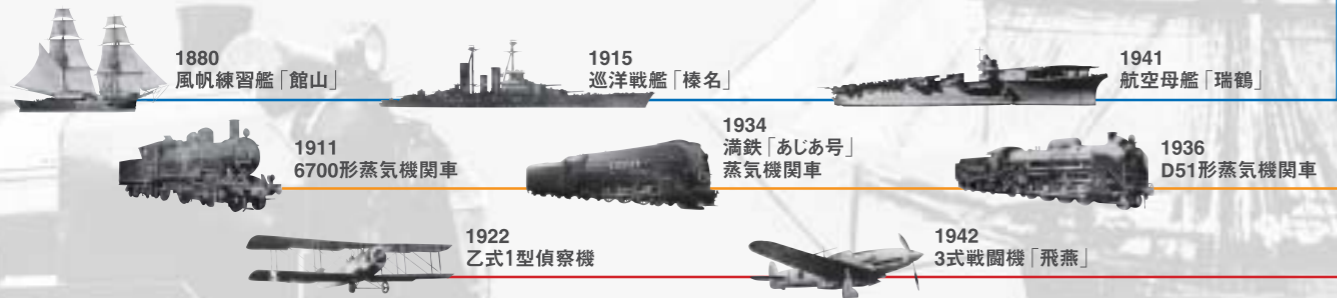
川崎重工業株式会社

証券コード:7012

# 陸・海・空の物語。

志を、世界へ。日本の近代を担ってきた  
カワサキブランドは、いま、地球の明日へ。

1878年、創業者・川崎正蔵が西洋型船の建造を志して川崎築地造船所を創設してから今日まで、  
技術の歴史は100年を超え、その製品は船舶はもとより鉄道車両、航空機、二輪車など、  
陸・海・空の全域におよび、世界の産業と人々の暮らしを結んで、地球の明日へと走り続けています。



## 陸・海・空の未来を担う川崎重工の技術



**液体水素運搬船**  
LNG運搬船で培った極低温技術を発展させ、沸点が絶対零度に近い液体水素を運ぶ船の実現をめざす。



**次世代型低床電池駆動路面電車「SWIMO」**  
車載用ニッケル水素電池「ギガセル」を開発、人にも環境にも優しい次世代型路面電車の実験車両が完成した。



**次期固定翼哨戒機「XP-1」**  
実用機で初めてとなる光ファイバーを使用した操縦システムなど最新技術を用いた純国産機を開発中である。



**MotoGPレーサー「Ninja ZX-RR」**  
最高峰クラスのレーサー開発による絶え間ない最先端技術への挑戦は、製品競争力の強化につながる。

### ■日本と川崎重工の歴史年表

1878 川崎 正蔵、川崎築地造船所(東京)を設立(当社の創業)	1928 川崎車輛(株)を設立	1962 川崎バートル107Ⅱヘリコプター第1号機を完成	わが国初のLNG運搬船受注	1991 英仏海峡海底鉄道トンネル掘削機・掘進を完了	2003 イラク戦争
1882 日本銀行開業	1929 ニューヨーク株式暴落、世界恐慌起こる	1963 ケネディ大統領暗殺	オイルショック	1995 阪神・淡路大震災、地下鉄サリン事件	2004 台湾高速鉄道向け車両の納入開始
1894 日清戦争始まる	1937 川崎航空機工業(株)を設立	1964 二輪車の米国向け輸出開始	純国産技術ガスタービン発電設備「カワサキPU200」を開発	1996 創立100周年・10/15記念式典を実施	2005 ブラント部門を分社しカワサキプラントシステムズ(株)を設立
1896 (株)川崎造船所を設立	1939 第二次世界大戦始まる	1964 東海道新幹線開業・東京オリンピック開催	1976 新東京国際空港(成田)開港	1997 消費税5%となる	2006 環境部門を分社しカワサキ環境エンジニアリング(株)を設立(現カワサキプラントシステムズ)
1904 日露戦争始まる	1941 川崎重工業(株)に社名変更	1969 川崎三社合併(航空宇宙・車両事業を吸収)	1978 米国フィラデルフィア市の路面電車を受注(わが国初の北米向け輸出電車)	2001 東京湾横断道路開通	2006 環境部門を分社しカワサキ環境エンジニアリング(株)を設立(現カワサキプラントシステムズ)
1906 国産初の潜水艦を完成	1941 太平洋戦争始まる	1969 国産初の産業用ロボット「川崎・ユニメート2000」を開発	1979 米国フィラデルフィア市の路面電車を受注(わが国初の北米向け輸出電車)	1998 明石海峡大橋開通	2007 カワサキグループ・ミッションステートメント制定
1914 第一次世界大戦始まる	1946 日本国憲法公布	1970 アポロ11号月面着陸	1982 P-3C対潜哨戒機第一号機を納入	2001 米国同時多発テロ	
1919 川崎汽船(株)を設立	1950 川崎製鉄(株)を設立	1970 日本万国博覧会(大阪)開幕	1985 プラザ合意・円高の進展	2002 欧州通貨統合 ユーロ導入	
1923 関東大震災発生	1952 ヘリコプターの製造を開始	1972 日中国交回復	1987 国鉄民営化・JR各社発足		
1926 東京市の永代橋を製作	1956 戦後初の国産潜水艦「おやしお」を受注	1973 ジェットスキーの販売を開始	1989 明石海峡大橋主塔工事を受注		

# 川崎重工業の社会活動。 その原点と現在。

近年、企業の社会的責任がクローズアップされていますが、

川崎重工業では、初代社長・松方幸次郎の時代から、さまざまな社会活動に取り組んできました。

それは、国家社会の大計に寄与することを当然と考える明治の企業家の心意気だったのかも知れません。

いま、川崎重工業は、「世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する“Global Kawasaki”」をグループミッションと定め、さらに高い意識をもって社会活動に取り組んでいます。

## 原点

社会の一員として、  
その発展に寄与することを  
自らの喜びとする。

創業者・川崎正蔵、初代社長・松方幸次郎は、進取の気性と国際感覚にあふれた経営者でした。文化、学術、社会システムなどの面で数々の活動を展開し、日本の近代化に貢献。その成果は広く公共に開かれています。

写真提供/孫文記念館

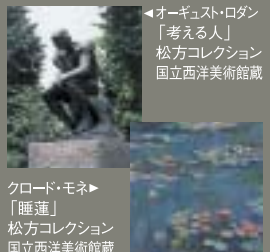
●1915 (大正4年)



国際交流の拠点、  
孫文記念館／移情閣。

中国革命の父・孫文に対する支援を記念する。孫文を顕彰する日本で唯一の博物館。

●1917 (大正6年)



オーギュスト・ロダン  
「考える人」  
松方コレクション  
国立西洋美術館蔵

クロード・モネ  
「睡蓮」  
松方コレクション  
国立西洋美術館蔵

「西洋文化をまるごと日本の若い芸術家たちに見せてやりたい。」松方コレクションは、松方幸次郎の社会的使命感から始まった。

ロンドンに社長室を置いていた松方は、社会教育の観点からルノワール、ゴッホ、モネ、ロダンなどの美術品を収集。その世界屈指のコレクションは、現在、東京の国立西洋美術館に収蔵されている。



●1917 (大正6年)



海を学び、海に生きる人を育てる、  
神戸大学海事科学部。

海洋立国「日本」を支えるため、川崎正蔵の遺言によって設立された川崎商船学校。現在は、神戸大学海事科学部。

写真提供/神戸大学

●1919 (大正8年)



労使関係の近代化に先鞭をつけた  
8時間労働制の導入。

労働争議に際し、日本で初めて8時間労働制を実施。神戸ハーバーランドには「8時間労働発祥の地記念碑」が立つ。

●1928 (昭和3年)



日本初の大規模移民収容施設、  
旧国立移民収容所／ブラジル移民発祥の地。

三代社長の平生鈞三郎は、ブラジルとの通商拡大に尽力。日本とブラジルの両国関係改善と移民支援に貢献した。



設立10周年記念式典 2007年4月11日

震災からの復興と地域経済再生のために、財団法人新産業創造研究機構(NIIRO)に参画

の連携による財団法人新産業創造研究機構(NIIRO)が設立された。設立当初より理事長には当社社長(現在は田崎会長)が就任しているほか、財団の研究・運営部門に人材を派遣。MIITなどの先端的な大学・研究機関の有する技術シーズの結集・融合を行うとともに、ベンチャー企業の育成、技術移転、ものづくり試作開発支援などで、大きな成果を上げている。



## 現在

カワサキワールド  
Kawasaki GoodTimes World

陸・海・空の企業ミュージアム「カワサキワールド」  
2006年、神戸海洋博物館の中にオープンした企業ミュージアム。楽しく遊びながら「技術のすばらしさ」や「ものづくりの大切さ」が実感できる。



# 人に役立つもの、社会が求めるものをつくりつづけてきた。 川崎重工の誇りは、そこにあります。

多様なビジネスモデルを持つ事業部門を束ねながら、10年後の企業ビジョン実現を目ざす大橋社長に、川崎重工グループの中期経営計画とその進捗状況について伺いました。



陸・海・空の輸送システムとエネルギー・環境分野で地球環境の未来に貢献していきます。



## 川崎重工は「専門メーカーの集合体」 部分最適と全体最適のバランスが企業成長の鍵

——川崎重工は、とにかく事業が多岐にわたっていらっしゃいますね。まずは、その点からお話をお伺いできますでしょうか。

**大橋** 川崎重工は、陸・海・空の輸送システムとエネルギー・環境分野を中心にビジネスを進めています。それぞれの事業分野において異なった事業モデルが存在していることが、当社の大きな特徴です。「専門メーカーの集合体」と言えると思います。

——それぞれ個別の事業モデルをお持ちなのですね。

**大橋** そうですね、各分野ごとに市場や顧客、競争相手のフィールドが違います。それぞれの事業が競争力を持って持続的に成長していくためには、事業ごとの特性に応じた経営を行っていかねばなりません。そのために、当社では社内カンパニー制を採用

しています。さらに船舶事業やプラント事業などはグループカンパニーとして事業体制の独立性、自由度を高め、機動的な経営を推進することで、それぞれ競争力を高めてきました。

一方、グループを統括している本社の役割は、個々の事業を束ねてグループ全体の経営効率を高めることにあります。カンパニーごとの部分最適とグループの全体最適をバランスの良い状態で経営していくことが私の使命と考えています。

——川崎重工は国際競争力のある企業という印象がありますが。

**大橋** 例えば、当社のコアビジネスである輸送用システムという観点から見ると、21世紀に入り、鉄道は地球環境に優しい陸上輸送手段と考えられるようになり、先進国や新興国に限らず旺盛な需要があります。地球上の資源に限りがあり、地球環境の保護という課題がある中で、人類が成長して文化的な生活を行っていくには、当社が培ってきた技術力が、より社会に貢献する時代になったといえます。

## 2007年度は過去最高益を更新 新しい企業ビジョンとともに新たな飛躍を

——次に2007年度(第185期)の業績についてお聞かせください。

**大橋** 2007年度は、2010年度を最終目標とする中期経営計画「Global ■<」の2年目でしたが、この2年間はある程度順調にきたと思っています。特に2007年度は、新興国のインフラ整備などが追い風となり、プラント、船舶、油圧機器のグループカンパニーの業績が好調で、事業構造改革の成果も上がり、全セグメントの黒字化を達成することができました。結果として、4期連続の増収・増益、2期連続の過去最高益となりました。

——「Global ■<」についてもう少し具体的に教えてください。

**大橋** 「Global ■<」の策定においては、川崎重工グループの10年後のあるべき姿として企業ビジョンを新たに決めました。新し

い企業ビジョンは「世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する“Global Kawasaki”」です。広汎な領域における高度な総合技術力によって、陸・海・空の輸送システムとエネルギー・環境分野を中心に地球環境の未来に貢献していくグローバル・リーディングカンパニーとなることを目標としています。

——御社が持つ卓越した技術力を世界中のビジネス分野で活かされるわけですね。それぞれの取り組みにおける進捗状況をお聞かせください。

**大橋** 当社グループの基盤を担う、4事業部門のうち、車両事業は、好業績を上げてきたアジア向け案件に加え、今後は米国向けの車両の生産が本格化するほか、国内の需要も大変旺盛です。航空宇宙事業は、防衛省向けの大型案件、民間向けの航空機についても順調に推移しており、今後は「ボーイング787ドリームライナー」の量産が控えています。

ガスタービン・機械事業は、非常用発電を含む産業用ガスタービンが堅実な伸びを示しているほか、航空機用エンジンや船舶用の推進機械も好調です。汎用機事業は、米国の景気後退や為替変動などによる影響を受けながらも、製品競争力の強化を図り、世界の市場を相手にブランド価値を高めます。

—— エネルギー・環境事業については「育成事業」と位置づけておられるようですが。

大橋 エネルギー・環境事業の母体の一つのカワサキプラントシステムズでは、選別受注・リスクマネジメントの諸施策を徹底したことや世界的なエネルギー需要の増大を背景に業績は大変好調です。環境分野の世界市場は膨らんでおり、今後当社の経営を支える有力な「柱」になりうるものと考えており、経営資源を効果的に投入していきたいと考えています。例えば天然ガスでは、海上基地から陸上にガスを送る設備に始まり、運搬する船舶、備蓄するタンク、発電するシステムにわたるまで、当社の技術やグループ力を集めたエネルギー分野のサプライチェーンによる事業展開が可能であり、将来を見据えた事業構想を策定中です。

—— 船舶事業など、その他の事業も好調と伺いましたが。


大橋 船舶事業は鋼材価格の高騰といったマイナス要素があるものの、世界的に旺盛な需要もあり好調です。

油圧機器事業は、米国の景気後退で若干の影響はありますが、新興国の経済成長に伴う建設機械市場の拡大に支えられ大変好調です。世界的油圧メーカーへの道を着実に歩んでいます。

ロボット事業においては、自動車組立用に加え、塗装用と半導体搬送用を重点3分野として国内外の大口顧客ベースでの事業拡大に取り組んでおり、建設機械事業は、中大型ホイールロード分野で独自の事業戦略を進めています。

**広汎な領域における高度な総合技術力を駆使し  
持続的成長と社会貢献、新しい価値創造を目指す**

—— 最後に、今後の展開などについてお聞かせください。

大橋 中期経営計画「Global 」の前半は順調に進んできましたが、米国のサブプライムローン問題に端を発する米国経済の停滞、世界経済の不透明感など、急激な経営環境の変化があります。従って、2008年度は、中期経営計画の折り返し点として、足元を見極め、後半の展開を見直す時期と考えています。新興国の経済成長、鋼材コストの動向、製品分野の見直しなどを踏まえ、今後の道筋を明らかにし、安定した収益体制を持続させていくことで、株主の皆様の期待に応えていきたいと考えています。

また当社は、社会・経済のグローバル化が進展し、地球環境問題が深刻化するなかで、ステークホルダーの皆様の幅広い期待にもこたえていかなければなりません。そこで昨年、当社グループの企業理念を改定し、新たに「カワサキグループ・ミッションステート

メント」を策定いたしました。当社に蓄積された技術資産を最大限に活用し、新たな価値を創造すれば、会社を持続的に発展させると同時に、社会の発展と地球環境の保全に貢献することになります。この新しいグループミッションのもとに、技術を通して成長と社会貢献の両方を実現させること、これが川崎重工グループの使命だと考えます。

—— 社会貢献型企業として、持続的な企業成長を目指されるのですね。本日はありがとうございました。

」'." data-bbox="635 525 955 955"/>

**中期経営計画「Global 」**

**■企業ビジョン**

カワサキは、高度な技術力により、世界全体の産業システムとエネルギー関連分野を中心に、世界の人の豊かな生活と地球環境の保全に貢献するグローバルリーディングカンパニーになります。

' in the center, surrounded by '海', '陸', '空', '水', '環境'." data-bbox="655 765 725 915"/>

**■基本目標**



**収益力の高いグローバル企業へ脱進**

① 持続的成長サイクルの確立へ向けた改革の徹底  
② 計画的企業「Global Kawasaki」を創出した集約と成長  
③ 顧客の価値に基づいた積極的なサービス提供  
④ CSR推進体制の強化による企業品質の向上

**■数値目標**

収益力の強化  
→ 財務体質の強化

ROIC (資本効率) の向上  
→ 売上経常利益率の向上

2012年度の目標

ROIC	14%	売上高	1兆5,600億円
経常利益率	5.8%	営業利益	1,000億円
		経常利益	900億円

ROE(ROIC) 100%以下 - 自己資本比率 30%以上

株主利益還元 (収益力の向上に即して順次増配)  
(1年長期の平均配当増加分5%以上増配)

注: ROICは営業利益率×(1-法人税率)÷(1+資本コスト)×100%  
ROEはROIC×自己資本比率÷100%

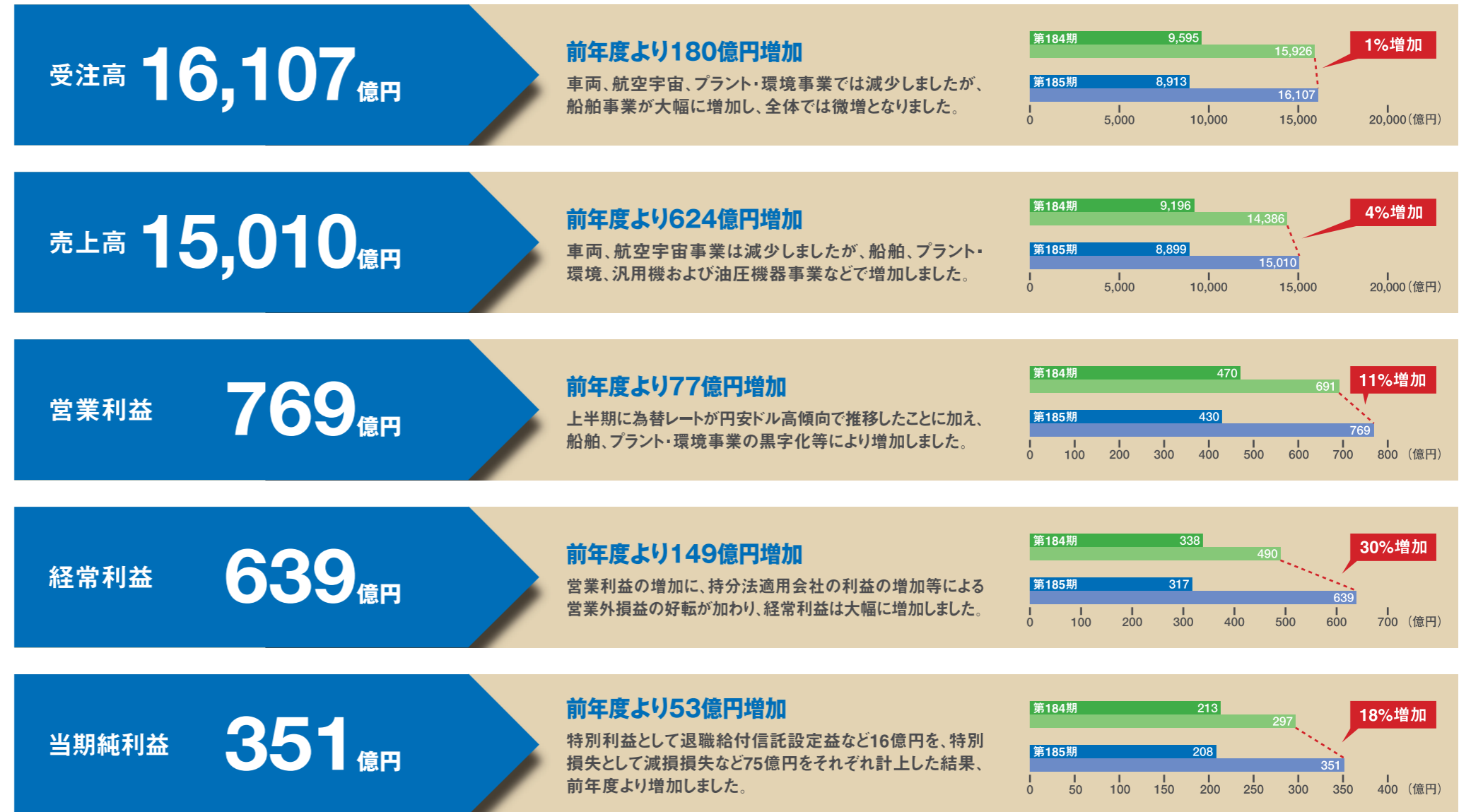
[ Financial highlights ]

売上・利益とも  
過去最高を更新!

当期におけるわが国経済は、上半期においては、不安要因はあったものの概ね底堅く推移しましたが、下半期に入り原油高に伴う原材料および消費財価格の一段の上昇や株式市場の下落、円高ドル安の進行など、不透明感が増す中で推移しました。海外においても、上半期は概ね順調に推移していましたが、下半期に入って、中国などでは好況が続いている一方、米国におけるサブプライムローン問題などに伴い、欧米の一部に信用収縮や景気の減速が見られるなど不安材料が多く見られるようになりました。

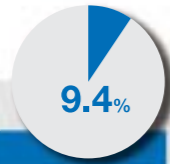
このような経営環境の下、4期連続の増収・増益、2期連続の過去最高益となりました。

なお、業績および内部留保等を総合的に勘案した結果、1株あたり5円を配当することといたしました。



当期事業分野別の概況

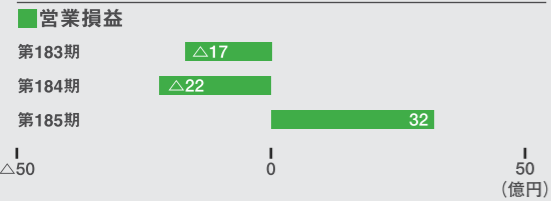
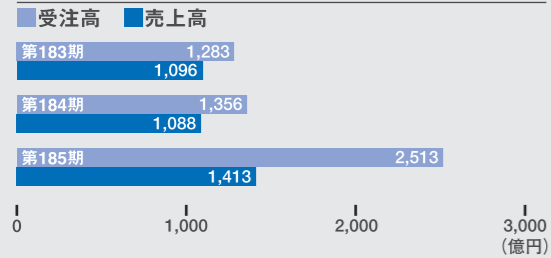
売上高構成比



船舶事業

売上増大と採算改善により大幅収益増

売上高は、LNG船、LPG船、大型タンカー、ばら積み貨物船、潜水艦などを計上し、1,413億円と前年度を大幅に上回りました。営業利益は、売上高の増加および採算改善により32億円となり、前年度より大幅に改善しました。



LNG運搬船「CELESTINE RIVER」 潜水艦「もちしお」

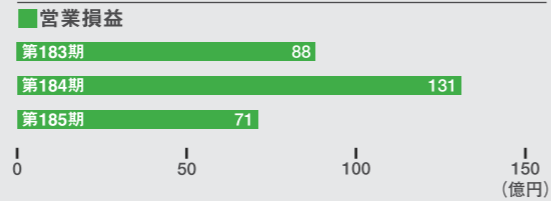
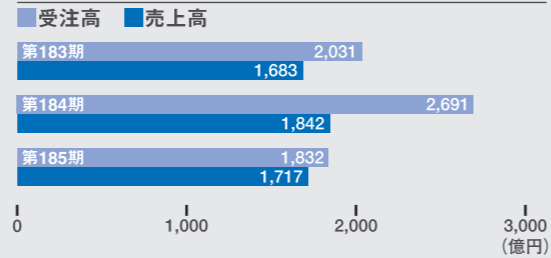
売上高構成比



車両事業

JR向けが増加するも海外向けが減少

売上高は、JR向けの車両の納入が増加したものの、海外向けが減少しました。建設機械がほぼ前年度並となったこともあり、1,717億円となり前年度を下回りました。営業利益は、売上高の減少に伴い前年度から59億円減少し、71億円となりました。



横浜市交通局向け「グリーンライン」10000形 ホイールローダ Authent115ZV-2

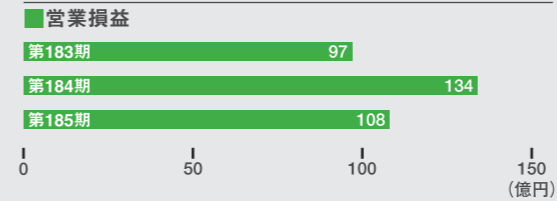
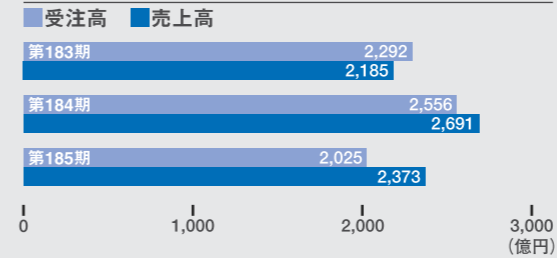
売上高構成比



航空宇宙事業

民需は堅調も防衛省向けが減少

売上高は、ボーイング社向けの旅客機分担製造品など民需は堅調でしたが、防衛省向けの売上が減少したことにより、前年度を下回り2,373億円となりました。営業利益は、売上高の減少に伴い前年度から25億円減少し、108億円となりました。



次期固定翼哨戒機 (XP-1) ボーイング787ドリームライナー

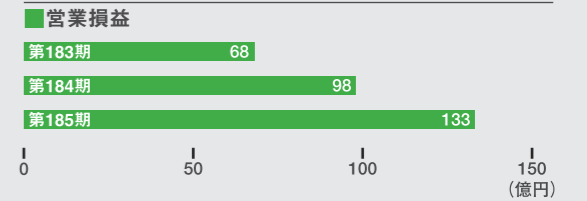
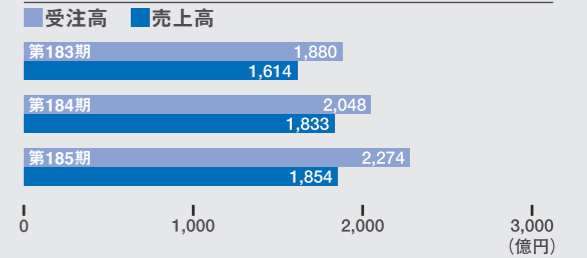
売上高構成比



ガスタービン・機械事業

航空機用エンジンが好調

売上高は、民需航空機用エンジン分担製造品や天然ガス圧送設備の売上の増加などにより、1,854億円と前年度を上回りました。営業利益は、民需航空機用エンジン分担製造品の売上の増加などにより、前年度から35億円増加し、133億円となりました。



MC塩浜エネルギーサービス株式会社向け15.9MWガスタービンコージェネレーション発電設備 カワサキグリーンガスエンジン

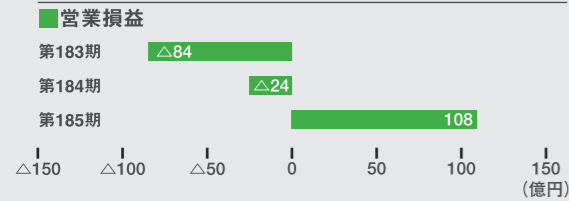
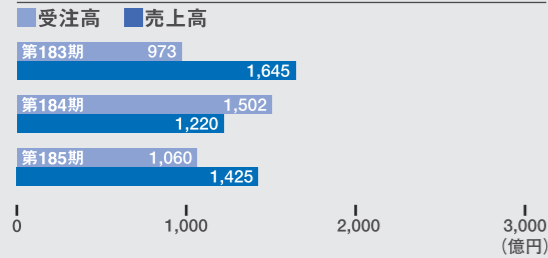
売上高構成比



## プラント・環境事業

### 合理化効果と不採算案件減少で黒字化

売上高は、海外向けセメントプラント・肥料プラントの売上が増加したことなどにより、1,425億円と前年度を上回りました。営業利益は、売上高の増加に加えて、プラントおよび環境部門の分社会社の合併による合理化効果や不採算案件の減少などにより108億円となり、前年度から大幅に改善しました。



中国向けセメント排熱発電設備



ブラジル向けコークスガス回収発電設備

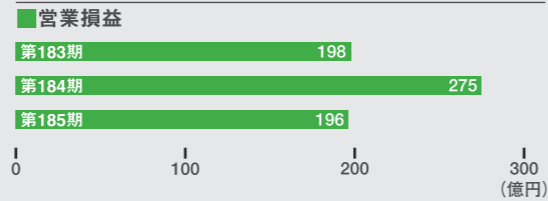
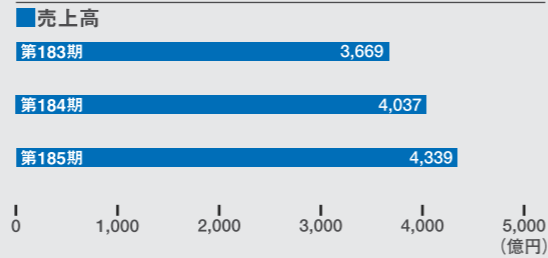
売上高構成比



## 汎用機事業

### 欧州向け二輪車とロボット部門が堅調

売上高は、欧州向け二輪車の販売の増加や、ロボット部門の自動車関連が堅調に推移したことなどにより、4,339億円と前年度を上回りました。営業利益は、売上高は増加したものの、資材費高騰の影響を受けたほか、減価償却費や販売管理費など諸費用の増加により前年度から78億円減少し、196億円となりました。

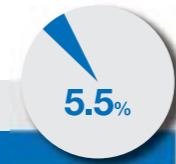


スーパースポーツ「Ninja ZX-10R」



超大型マニピュレーター-MX500N

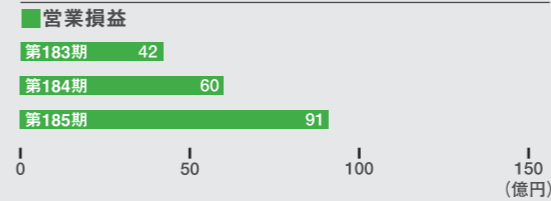
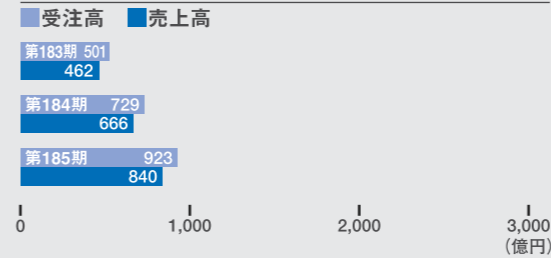
売上高構成比



## 油圧機器事業

### 建設機械向けが引き続き高水準で推移

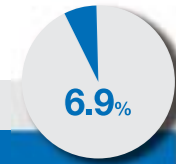
売上高は、建設機械向けが引続き高水準で推移したことにより、840億円と前年度を大幅に上回りました。営業利益は、売上高の増加に伴い、前年度から30億円増加し91億円となりました。



各種油圧機器

使用例

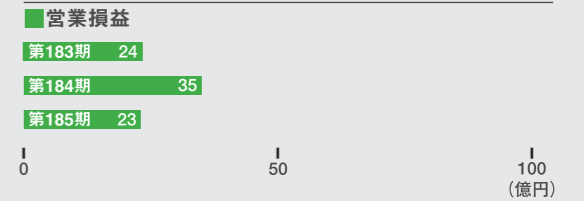
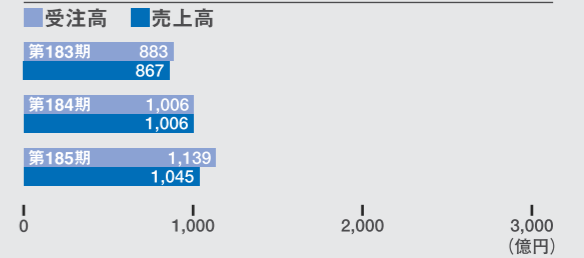
売上高構成比



## その他事業

(商業、ビル・福利施設の管理など)

売上高は1,045億円と前年度を上回りました。営業利益は、前年度から11億円減少し、23億円となりました。



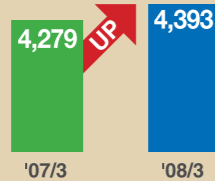
神戸クリスタルタワー



Point

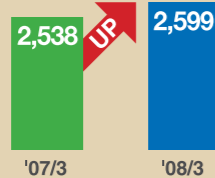
Point 1 棚卸資産

棚卸資産とは、顧客に引渡す前の製品、原材料、仕掛品（製造途中の製品など）の総称のことで、当社の場合は引渡し前の製品などが該当します。今期は、航空宇宙、ガスタービン・機械事業などで棚卸資産が増加しました。



Point 2 有形固定資産

有形固定資産とは、会社が長期にわたって使用する資産で、主に建物や設備、土地などの目に見えるものを指します。今期は、名古屋第一工場の横に、ボーイング787向け専用工場を建設するなど、積極的な設備投資により有形固定資産が増加しました。



連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当期		前期	
	平成20年3月31日現在		平成19年3月31日現在	
<b>資産の部</b>				
流動資産	982,282	961,917		
棚卸資産	439,309	427,934		
その他	533,983	542,973		
固定資産	396,487	396,062		
有形固定資産	259,927	253,819		
無形固定資産	16,053	15,128		
投資その他の資産	120,506	127,114		
資産合計	1,378,769	1,357,979		
<b>負債の部</b>				
流動負債	824,541	806,506		
固定負債	235,190	256,095		
負債合計	1,059,732	1,062,602		
<b>純資産の部</b>				
株主資本	309,560	282,110		
資本金	104,328	103,187		
資本剰余金	54,290	53,179		
利益剰余金	151,401	125,798		
自己株式	△459	△55		
評価・換算差額等	3,631	8,317		
その他有価証券評価差額金	10,292	19,342		
繰延ヘッジ損益	5,217	△1,607		
為替換算調整勘定	△11,878	△9,417		
少数株主持分	5,845	4,949		
純資産合計	319,037	295,377		
負債・純資産合計	1,378,769	1,357,979		

連結キャッシュ・フロー計算書(概要)

(単位：百万円)

科目	当期		前期	
	平成19年4月1日から平成20年3月31日まで		平成18年4月1日から平成19年3月31日まで	
営業活動によるキャッシュ・フロー	75,765	45,859		
投資活動によるキャッシュ・フロー	△49,090	△43,312		
財務活動によるキャッシュ・フロー	△27,391	△1,306		
現金及び現金同等物の期末残高	38,169	39,228		

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当期		前期	
	平成19年4月1日から平成20年3月31日まで		平成18年4月1日から平成19年3月31日まで	
売上高	1,501,097	1,438,618		
売上原価	1,262,032	1,213,524		
売上総利益	239,064	225,094		
販売費及び一般管理費	162,154	155,952		
営業利益	76,910	69,141		
営業外収益	17,845	12,496		
営業外費用	30,783	32,585		
経常利益	63,972	49,052		
特別利益	1,668	—		
特別損失	7,585	3,785		
税金等調整前当期純利益	58,055	45,267		
法人税、住民税及び事業税	23,270	16,622		
法人税等調整額	△1,260	△1,336		
少数株主利益	903	209		
当期純利益	35,141	29,771		

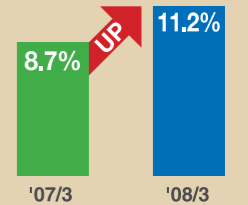
連結株主資本等変動計算書(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで) (単位：百万円)

科目	株主	評価・換算	少数	純資産
	資本合計	差額等合計	株主持分	合計
平成19年3月31日残高	282,110	8,317	4,949	295,377
当連結会計年度中の変動額				
新株の発行	2,254	—	—	2,254
剰余金の配当	△8,297	—	—	△8,297
当期純利益	35,141	—	—	35,141
自己株式の取得	△488	—	—	△488
自己株式の処分	97	—	—	97
その他	△1,256	—	—	△1,256
株主資本以外の項目の当連結会計年度中の変動額(純額)	—	△4,686	895	△3,790
当連結会計年度中の変動額合計	27,450	△4,686	895	23,659
平成20年3月31日残高	309,560	3,631	5,845	319,037

Point

Point 3 投下資本利益率(ROIC)

目標とする経営指標は、投資家の皆様の期待に応える利益を稼得することを目的として、資本効率を測る指標である投下資本利益率(ROIC)を採用しています。



※ROIC=(税引前利益+支払利息)÷投下資本

ホームページのご案内

当社ホームページでは、投資家のみなさま向けに、さらに詳しい財務関連情報を掲載しております。また、企業情報や環境への取り組みなど幅広い内容となっておりますので、ぜひご覧ください。



<http://www.khi.co.jp>

単独財務諸表

科目		当期	前期
		平成20年3月31日現在	平成19年3月31日現在
資産の部	流動資産	612,879	627,271
	固定資産	310,082	310,997
	有形固定資産	133,869	134,805
	無形固定資産	11,256	9,820
	投資その他の資産	164,956	166,371
	資産合計	922,962	938,269
負債の部	流動負債	508,229	518,756
	固定負債	159,366	176,383
	負債合計	667,596	695,139
純資産の部	株主資本	240,745	226,382
	資本金	104,328	103,187
	資本剰余金	52,107	50,995
	利益剰余金	84,769	72,244
	自己株式	△459	△45
	評価・換算差額等	14,620	16,747
	その他有価証券	9,237	17,810
	評価差額金		
	繰延ヘッジ損益	5,383	△1,062
	純資産合計	255,366	243,129
負債・純資産合計	922,962	938,269	

科目	当期	前期
	平成19年4月1日から平成20年3月31日まで	平成18年4月1日から平成19年3月31日まで
売上高	889,963	919,655
売上原価	784,062	809,058
売上総利益	105,900	110,596
販売費及び一般管理費	62,847	63,510
営業利益	43,053	47,086
営業外収益	9,051	10,403
営業外費用	20,399	23,609
経常利益	31,705	33,879
特別利益	3,088	—
特別損失	6,294	3,785
税引前当期純利益	28,499	30,094
法人税、住民税及び事業税	8,743	7,925
法人税等調整額	△1,066	850
当期純利益	20,822	21,319

科目	株主資本合計	評価・換算差額等合計	純資産合計
平成19年3月31日残高	226,382	16,747	243,129
当期中の変動額			
新株の発行	2,254	—	2,254
剰余金の配当	△8,297	—	△8,297
当期純利益	20,822	—	20,822
自己株式の取得	△488	—	△488
自己株式の処分	73	—	73
特別償却積立金取崩	—	—	—
固定資産圧縮積立金取崩	—	—	—
特別償却積立金の積立	—	—	—
株主資本以外の項目の変動額(純額)	—	△2,127	△2,127
当期中の変動額合計	14,363	△2,127	12,236
平成20年3月31日残高	240,745	14,620	255,366

会社概要・役員 株式の状況・大株主

創立	明治29年10月15日
資本金	104,328,628,664円
従業員	10,263名
本社	(神戸) 神戸市中央区東川崎町1丁目1番3号 (東京) 東京都港区浜松町2丁目4番1号

発行可能株式総数	3,360,000,000株
発行済株式総数	1,669,629,122株
株主総数	179,607名

取締役会長	田崎 雅元	執行役員	服部 晃
取締役社長	大橋 忠晴		浅野 雄一
取締役副社長	松崎 昭		山口 徹
常務取締役	元山 近思		木野内 総介
	瀬川 雅司		河村 義雄
	丹波 晨一		山下 清司
	三原 修二		菅原 健史
	長谷川 聡		上田 澄広
	高尾 光俊		金森 渉
監査役	田上 朗		渡邊 武史
	岡崎 信行		村田 泰男
	川本 洋		牧村 実
	土井 憲三		宮武 環
常務執行役員	神林 伸光		山中 秀一
	松岡 京平		広畑 昌彦
	村山 滋		田中 信介
			下村 豊

株主名	所有株式数	比率
株式会社みずほ銀行	57,443,650株	3.44%
JFE スチール株式会社	56,174,400株	3.36%
日本生命保険相互会社	54,016,659株	3.23%
JP MORGAN CHASE BANK	53,183,000株	3.18%
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	53,176,000株	3.18%
東京海上日動火災保険株式会社	46,397,589株	2.77%
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	37,158,000株	2.22%
川崎重工業従業員持株会	30,422,296株	1.82%
川崎重工共栄会	29,469,192株	1.76%
日本興亜損害保険株式会社	27,521,999株	1.64%

今回の表紙

今回のビジネスレポートでは当社の「歴史」を取り上げましたので、表紙も歴史をテーマにしました。軌道上の車両は、2007年3月に全線開業した台湾高速鉄道(いわゆる台湾新幹線)。水面に映る蒸気機関車はC56型です。川崎重工は日本の鉄道技術の発展に大きく貢献しています。



切り取ってご利用ください

川崎重工業株式会社

ご来場の際は本券を切り離してご持参ください。

ご利用日	年	月	日
ご利用内訳	大人	名	小人 名

見本

## ■株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 その他必要があるときは、 あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人	中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒541-0041 大阪市中央区北浜二丁目2番21号 TEL:0120-78-2031 (フリーダイヤル) 中央三井信託銀行株式会社 大阪支店 証券代行部
同取次所	中央三井信託銀行株式会社本店、全国各支店 日本証券代行株式会社本店、全国各支店

## ■ご案内

### <住所変更の手続きについて>

新市制の施行や町村合併、住居表示の変更又は転居などにより、ご住所が変更になったときは、株主名簿の変更手続きが必要となります。手続きをお忘れになると株主総会招集ご通知や配当金などのお受け取りができなくなりますので、お早めにお手続きいただきますようお願いいたします。

### <配当金振込制度のご利用について>

配当金のお受取方法には、銀行口座及びゆうちょ銀行(通常貯金口座)へのお振込も可能です。ご希望の株主様は、下記株主名簿管理人あて配当金振込指定書をご請求のうえお申し込みください。

### ○事務のお取扱い(電話お問い合わせ・郵便物送付先)

中央三井信託銀行株式会社証券代行部(証券代行事務センター)  
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
TEL:0120-78-2031(土日祝日を除く 午前9時～午後5時)

住所変更、名義書換請求などに必要な用紙のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル**0120-87-2031**で24時間受付しております。

## 楽しく体験!陸・海・空のテクノロジーワールド

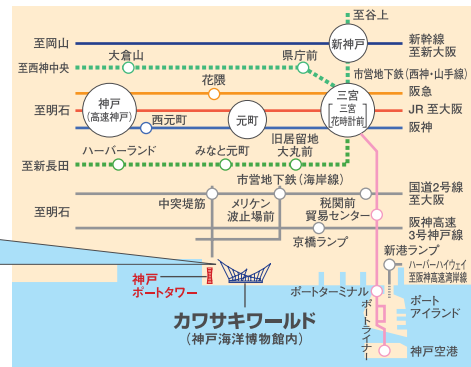
# カワサキワールド

Kawasaki GoodTimes World

船舶、鉄道車両、航空機、モーターサイクル…  
神戸に生まれ、日本に、そして世界に最新のテクノロジーを送り出す川崎重工グループ。  
陸・海・空の各分野で活躍する、そのテクノロジーの歴史、現在、そして未来を、ぜひ、カワサキワールドで感じてみてください。

**所在地** 〒650-0042 兵庫県神戸市中央区波止場町2番2号  
**開館時間** 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
**休館日** 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は、翌日に休館)  
年末年始(12月29日から1月3日)  
**お問い合わせ** 神戸海洋博物館 TEL.078-327-8983 FAX.078-332-4739  
<http://www.khi.co.jp/kawasakiworld/>

## 交通案内



- 飛行機で「神戸空港」からタクシーで約20分
- 新幹線で「新神戸駅」からタクシーで約15分
- 電車で 市営地下鉄海岸線「みなと元町駅」から徒歩約10分  
JR・阪神「元町駅」から徒歩約15分  
神戸高速(阪急・山陽)「花隈駅」から徒歩約15分

- シティープデ「地下鉄三宮駅前(西行)」乗車約15分  
「中突堤(ポートタワー前)」下車徒歩1分
- 車・タクシーで JR・阪神・阪急「三宮駅」から約10分  
JR・阪神「元町駅」から約5分  
阪神高速道路「京橋ランプ」から約5分  
ハーバーハイウェイ「新港ランプ」から約5分  
※周辺には駐車場(有料)があります。

## 神戸海洋博物館入館料

大人	500円	小人(小中学生)	250円
----	------	----------	------

※入館料には、各種割引があります。  
※カワサキワールドの入場料は、神戸海洋博物館の入館料に含まれています。

切り取ってご利用ください

# カワサキワールド

Kawasaki GoodTimes World

株主様ご招待券(3名様無料)

平成21年3月31日まで有効

見本

川崎重工業株式会社

TEL:078-371-9533(総務部株式担当)



この報告書は環境に配慮し、VOC(揮発性有機化合物)の発生の少ない大豆インクを使用しています。

